

【事業者名称】高齢者グループホーム志賀の里(喜多)

平成21年 1月26日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に「地域密着型サービスを意識した文言の追加」に関しては、まだ事業所全体でのコンセンサスができていない。		
2	2	<input type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールの目に付く所に掲示しており、理念の共有・実践はできている。		
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には理解してもらっている。	○	地域防災活動や自治会活動への参加などの機会を使って、地域への理念の理解を深めていきたい。
理念と共有 3項目中1項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	H20年11月には、地域自治会の方の施設見学の実施など、日々の関係作りに取り組んでいる。		
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	H20年10月の自治会防災会避難訓練には施設代表として管理者が参加。11月の小学校PTA活動にも参加している。	○	管理者だけでなく職員もご利用者と共に、地域活動に参加する機会を設ける工夫が必要である。
6		<input type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	前年同様、日々のケアに重点がおかれ、地域貢献への視点が曖昧で、出来ていない。		
地域とのつきあい 3項目中1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での評価事項を意識しながら、具体的な改善に取り組むよう活用できている。		
8	5	<input type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議議事録を職員全員に回覧し、毎月の全体会議上でも議事内容を説明している。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、連携を取る機会が少ない状況である。	○	事業所からこまめな情報交換の機会を持つようアプローチが必要である。
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修として学ぶ機会が少ない。	○	職員間でも関心をもち研修に積極的に参加する。
11		<input type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	11月には職員1名を「身体拘束セミナー」へ派遣するなど、今後も研修機会を増やしていく。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中3項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となり行っている。		
13		<input type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け対応している。		
14	7	<input type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や行事を通して、機会あるごとに家族には報告を行っており、志賀の里新聞や志賀の里便りを送ることで報告している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン開示時に家族の意見を聞き、ケアプランや日々の介護に反映している。		
16		<input type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は常に情報交換・意見交換を行っている。その意見を集約して管理者は運営者に提案している。		
17		<input type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況に合わせて、職員数の変更や、遅出・早出の調整は常に行っている。		
18	9	<input type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3月の管理者の交代や職員の異動に関しても、利用者への影響を防ぐよう運営者と管理者間での検討は行っている。		
理念を実践するための体制 7項目中1項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に必要な研修に参加している。		新年度の志賀の里研修計画を策定予定である。
20	11	<input type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会での交流・勉強会や他所のグループホームの研修などを受け入れ、積極的に交流している。		他の施設の人の考え方や行っていることなど、参考になる事を学び、意見交換する機会をもっと持ちたい。
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の福利厚生で食事会やボーリング等の行事を行い、可能な限り参加している。		
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、法人内でのグループホーム職員個々の実績や勤務状況を把握できていないと思われる。	○	管理者は運営者への、さらなる密な情報交換の機会を作るよう取り組んで行くことにする。
人材の育成と支援 4項目中1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員は利用者の言葉を大切にし、言葉にできない方は、日々の生活を通して、感じられることを大切にアセスメントしている。		初期の相談に関しては、管理者と職員が二人一組で面会に伺い、利用者・家族の話を多面的に聞くことに努力している。
24		<input type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者を中心に行っている。		必要ならば、法人内他部署の専門職との協議を行っている。
26	12	<input type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前のアセスメントからお試し利用を活用し、徐々に馴染んでいただけるように工夫している。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中0項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は日中、ホールでお手伝いをしたり、他者の世話をやいたり、たの利用者や職員と関りながら過ごしている。		
28		<input type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は、利用者本人も含めて詳細な様子の報告を行っており、家族と共にご本人を支える関係ができています。		
29		<input type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月の新聞にて行事の案内、年2回のイベントへのお誘いの手紙を送っている。面会時には家族と本人とで過ごせる環境を作っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	利用者の馴染みのものを知るように努 め、職員全員が適切な支援を継続してい る。	○	馴染みの人、馴染みの場所にもっと もっと接していけるように支援したい。
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	自ら歩ける方同士はお互いに関り合いを 持っておられる。他の方とも関わりが持て るように職員も間に入り、関係作りをして いる。		日中はホールで過ごす時間を大切に し、利用者同士の関係性を作るよう 工夫している。
32		<input type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用後も、運営推進会議の委員 などでかかわっていただいている。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中0項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者のケアプランに生活に関する課題をあげ、その人らしい生活に近づけるようにアセスメントしている。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活情報を収集し、スタッフ全員が把握できるようにしている。		初期アセスメント時には、センター方式の「24時間シート」等を家族に書いてもらい、これまでの生活歴などの把握に努めている。
35		<input type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1週間毎にアセスメントを行い、個々の利用者にあつたケアプランとの連動に努めている。		
一人ひとりの把握 3項目中0項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、ユニット会議を開催し、スタッフ間でプランの見直しの検討を行っている。	○	前年同様、より家族の意見も反映させたプランの作成方法を検討する必要がある。
37	16	<input type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1週間毎に見直しを行い、ユニット会議で再度全員で検討している。3ヶ月毎のモニタリングも行っている。		
38		<input type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアプランを作成しており、情報の共有も出来ている。		
介護計画の作成と見直し 3項目中0項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な関係者と連携をとりながら、介護保険の制度の中で最大限できる支援を行っている。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中0項目					

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要な社会資源、関係者と協力するようになっている。	○	今年度は特に地域との防災協力に関して、具体的な取り組みを行ってきた。
41		<input type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人中心のサービスの利用を考え、事業所に困り込むことなく、支援している。		
42		<input type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に本人中心に必要な機関と協働している。		
43	18	<input type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診があり、緊急時には電話連絡にて指示をもらう関係ができています。		
44		<input type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の必要性に応じ、専門医の受診の支援を行っている。		
45		<input type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの医療連携をとり、週1回の訪問時に相談している。		
46		<input type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院に際して必ず情報提供を行っている。退院時も家族や関係機関と連絡・連携をとっている。		
47	19	<input type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態に変化があれば、家族へ適宜連絡して状況を伝えている。終末期に関しては必要時に主治医・家族・関係者を含めた会議を開催し、方針を確認している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の契約書を利用し、「入院の場合」「グループホームの場合」「在宅の場合」と暮らしのメリット・デメリットを考慮しながら支援、検討している。		
49		<input type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時も、関係者間で情報収集や情報提供は行っている。		
地域資源との協働 10項目中0項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個人にあった対応をケアプランを中心に心がけている。	○	今まで以上にプライバシーの確保には細心の注意を払い、職員も重要性の認識を徹底する事が必要である。
51		<input type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者中心に、まず本人に話を聴きながらアセスメントしている。		
52	21	<input type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるよう支援している。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中0項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容店へ行くことが難しい為、訪問理容を利用している。個人に合わせた身だしなみが出来るよう支援している。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の負担にならない程度にスタッフと一緒に片付け等を行っている。	○	今後は簡単な味噌汁作りなどを、利用者と一緒に作れるよう取り組みたい。
55		<input type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に添えるよう援助している。直接希望を言えない人には数種類の中から選んでもらえるようにしている。		


自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56		<input type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の記録を継続しながら、個々の排泄パターンをつかみ、適宜排泄誘導を行っている。1で行える方はさりげなく声かけをしている。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2人介助で入浴を行う必要がある利用者もあり、個々のタイミングとスタッフの人数に合わせて入浴している。	○	限られた人員の中で、工夫しながら入浴できるようにしたいが、困難なときも多い。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状態を観察し、利用者の習慣の添うように就寝してもらっている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中1項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物や塗り絵など、本人の興味のある事、出来る事を探りながら職員が支援している。		
60		<input type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができる認知レベルの方がおられないので、一括で管理している。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外へ散歩や買い物に出かけている。	○	身体状況によって、外出の機会の少ない方も、可能な限り外気に触れるよう支援していきたい。
62		<input type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の体調や、天候、気候を考慮しながらドライブなどの外出は出来ている。 (花見、食事会、紅葉狩りなど)		
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、電話を使用される利用者がいない。電話がかかってくると本人に取り次いでいる。	○	機会は少ないが、チャンスを潰さないように心がけたい。
64		<input type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問は多い。知人の面会もたまにはあり、ゆっくり過ごせるよう工夫している。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中2項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が交代で身体拘束防止の研修に参加するなど、拘束をしないケアを心掛けている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。夜間は安全のため施錠している。		
67		<input type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や様子を把握し、見守りを行い、安全に行動出来るよう支援している。		
68		<input type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各利用者の状態をアセスメントして、物品の配置を考えながら危険回避している。		
69		<input type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態、行動や過去の事故報告書をアセスメントの材料にして、同様の事故を起こさないよう、必要時、個人のケアプランにあげ事故防止している。		
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故のマニュアルはあるが、すべての職員が応急手当や初期対応は出来ない。	○	マニュアル整備や研修を行い、すべての職員が最低限の統一した対応ができるようにしたい。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域自治会との話し合いや施設見学は行ったが、合同訓練は出来ていない。事業所単体での訓練は行っている。	○	次回の避難訓練には自治会の方の参加依頼が出来ている。
72		<input type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の状態を観察し、事故の起こる前にリスクについて説明を行っている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中2項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインの測定を行い、変化に早期に気づけるようにしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスのないよう、常によい方法を工夫している。内服の説明書をつづり、不明な点はどの職員も確認できるようにしている。		
75		<input type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝一に冷えたポカ리를飲んだり、ヨーグルトを食べるなど、その都度工夫している。医療職との連携もとれている。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後はできていない。起床時、就寝前には必ず行っている。	○	毎食後の確実な口腔ケアが出来るよう、職員に口腔ケアの大切さを周知する。
77	28	<input type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別的に観察し、利用者の食事・水分摂取の状態を把握し対応している。水分摂取量の少ない方には、摂取量を記録している。		
78		<input type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ・ノロウイルス等のマニュアルを目に見えるところに張っている。法人内の感染防止委員会にも参加している。		
79		<input type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理員と協力し、調理員は食材を職員は利用者の手指消毒に努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中1項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が奥まってわかりにくいいため、デイサービスの入り口に案内板を設置している。		
81	29	<input type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の表情を観察しながら、心地よい環境を提供できるよう努めている。花を飾ったり、季節感のある絵を貼ったりしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを設置し、本人が過ごしたい場所で過ごせるよう努めている。		
83	30	<input type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち込まれた家具・寝具などを使用し、利用者の好みに合わせて生活してもらえよう工夫している。		
84		<input type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暑過ぎたり、寒過ぎたりしないように適宜室温の調整を行っている。冬場は濡れタオルを干したり、加湿器を使用して乾燥に気をつけている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中0項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に検討し、ケアプランに反映させている。		
86		<input type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	可能な限り自立して生活できるよう、本人の出来る力を大切に関わっている。		
87		<input type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候、天候に合わせてテラスや玄関前の空間で過ごすようにしている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中0項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
項目		14 取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々のケアの視点として、認知症があってもご本人の出来ることを大切に、可能な限りご本人の希望する生活が継続出来るよう関わっています。

評価結果整理表

個別表

□のチェック項目数

I 理念に基づく運営

－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	1 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	1 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	2 項目/5項目
－4.	<input type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	0 項目/7項目
－5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	1 項目/4項目

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	2 項目/4項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	2 項目/6項目

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	1 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1 項目/3項目
－3.	<input type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	0 項目/1項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	1 項目/10項目

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

IV－1. その人らしい暮らしの支援

－1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	1 項目/3項目
－1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	2 項目/6項目
－1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	2 項目/6項目
－1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	2 項目/8項目
－1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	1 項目/7項目

IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

－2. (1)	<input type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	0 項目/5項目
－2. (2)	<input type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	0 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (項目/5項目)について

前年度の課題であった、地域とのつながりに関しては、管理者主導のもと少しずつではあるが、自治会活動などへ参加する機会や住民の見学なども増えてきた。更なる参加機会を作ることで、事業所の理念を啓発する機会も増えてくると思われる。また職員研修に関しては「権利擁護研修」「身体拘束セミナー」などへの研修参加を通して、参加職員による全職員への講義内容のフィードバックが必要であり、その機会を設けていく。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (項目/2項目)について

初期面接に職員を交代で参加させることにより、アセスメントの重要性と大切な課題を捉える視点を養えるよう、今後も指導していくことが大切である。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (項目/4項目)について

ケアプランを作成・更新する過程で、家族の意見も参考にするために、今後家族も含めたモニタリングの機会を設定する。地域との災害時緊急避難に関する連携は着実に進んでおり、今後避難訓練などを通して更なる具体的な連携を取れるように、話を進めていく必要がある。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (項目/7項目)について

利用者の介護の重度化により、日常生活でのご本人の出来ることが減ってきてはいるが、職員も出来ない諦めるのではなく、少しでも出来ることを見つけ支援していくことが、専門職としての技術アップに繋がっていくことを、会議や日々の業務の中で逐次指導・啓発していく事が必要であり、今後の課題でもある。

V サービスの成果に関する項目について

職員と家族とのコミュニケーションは取れているようだが、本当の家族の想い・希望までは理解できていないと考える。今後も季節イベント(家族会)などを通して、ご家族との意見交換を蜜に行う必要がある。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 高齢者グループホーム志賀の里(喜多)

評価年月日:平成21年 1月26日

前回評価年月日:平成20年 1月23日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
3	3	地域への理念の浸透	平成21年2月 ～22年3月	地域活動への参加を 通して浸透を図る		平成22 年1月
5	3	地域とのつきあい	平成21年2月 ～22年3月	職員も地域活動に参加する機会を設ける		平成22 年1月
9	6	市町村との連携	平成21年2月 ～22年3月	地域包括支援センターとの連携を図る		平成22 年1月
10	6	権利擁護の研修の職員参加	平成21年2月 ～22年3月	新年度の研修計画を立てる。法人全体での研修への参加		平成22 年1月
22	4	運営者と管理者の意見交換に基づく運営	平成21年2月 ～22年3月	運営者へのタイムリーな状況報告		平成22 年1月
23 25 30 31 34	5	利用者・家族との信頼関係・情報交換に基づく支援	平成21年2月 ～22年3月	初期相談・ケアプラン作成を通して、家族の意見を反映する		平成22 年1月
36	5	利用者本位のケアプラン作成	平成21年2月 ～22年3月	家族参加によるモニタリングの実施		平成22 年1月
40 71	2	地域資源との協働	平成21年2月 ～22年3月	具体的な防災連携をまとめる		平成 22年 1月
50	5	プライバシーの確保	平成21年2月 ～22年3月	個人情報に関する研修への参加		
54	5	楽しい食事への関り	平成21年2月 ～22年3月	みそ汁作りを始める		平成22 年1月
57	5	利用者本位の入浴	平成21年2月 ～22年3月	タイミングを合わせて誘ってみる		平成22 年1月
61 63 70 76	5	利用者主体の外出・生活支援	平成21年2月 ～22年3月	ケアプランを充実させ実行する		平成22 年1月
98	1	職員のタイムリーな補充	平成21年2月 ～22年3月	運営者へのタイムリーな状況報告		平成22 年1月
92	5	利用者の屋外の行きたいところへのお出かけ	平成21年2月 ～22年3月	ケアプランを充実させ実行する		平成22 年1月